第２期

矢上高校将来ビジョン

地域社会の未来を共に生き抜く
たくましい人間づくり

島根県立矢上高等学校

はじめに

島根県立矢上高等学校
校長　志波 英樹

平成23年度に離島・中山間地の高校魅力化事業が始まった当初は、対象校の大半で定員割れの状況になっていたこともあって、主眼は生徒募集に置かれることが多かったように思います。矢上高校が平成27年度に策定した最初の将来ビジョン（第１期ビジョン）においても、１学年３学級120人の復活が目標とされ、重点項目の１つに「県外生徒獲得システムの導入」が掲げられました。第１期の５年間に行われた具体的施策、使われた経費からみても、本校が生徒募集に多くの力を注いで取り組んできたことが分かります。

第１期ビジョンの検証報告書に詳しく示されているとおり、この間県外からコンスタントに入学者を確保できたこともあって、定員割れを概ね解消することができました。とくに産業技術科においては志願倍率が安定して１倍を超えるようになり、令和２年度入学から産業技術科の定員が５名回復となったことは、大きな成果となりました。

一方で、第１期ビジョンの５年の間に、矢上高校を取り巻く状況は大きく変貌しました。離島・中山間地の高校を対象に始まった魅力化事業は、その対象を県内すべての高校に広げられ、各校は魅力化コンソーシアムを構築して、地域と連携しながら学校運営を行うことを求められるようになりました。島根県が先駆けた県外からの生徒募集活動は、「地域みらい留学」として全国的な取組となり、全国各地の高校が県外生徒募集に名乗りを上げて、次々と成果を上げるようになりました。また国の教育施策の方向性は、学習指導要領改訂や高大接続改革の動きとあいまって、より探究的で、協働的な学びが指向されることが鮮明になりました。

このような中、矢上高校は令和新時代をどのように進んでいくことが求められているのか。第２期ビジョンの策定は、その命題に挑戦する試みであったように思います。魅力化推進本部会議で議論を重ねながら、第２期ビジョンでは、引き続き積極的な生徒募集による定員の安定的充足をめざしつつも、地域との協働を意識した教育内容の魅力化・特色化の推進、地域課題の解決に向けた探究的な学びの追求、コンソーシアムを軸とする地域との連携体制構築を柱として掲げることとしました。生徒募集についても、県外募集で鎬を削るよりも町内からの入学率向上を強く意識して取り組むことにしました。これらの内容は、第１期ビジョンをブラッシュアップしつつ、国の動向、本県の教育施策の方向性、地域のニーズに適うものになったと考えています。

また、矢上高校は令和２年度から３年間、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を受託しました。この事業は、地域の方々や諸団体に「協育パートナー」となっていただき、地域とともに本校の学びを高めていく内容であり、第２期ビジョンに掲げた教育内容の充実に大いに資するものであります。３年間の文部科学省の事業、５年間の第２期ビジョンの期間を終えた後、矢上高校がさらなる発展を遂げていることを楽しみにしています。

目次

はじめに
第１章　矢上高校の現状と社会的使命（ミッション）の確認　1
　１.矢上高校の概要　1
　２.矢上高校の現状と求められるこれからの姿　2
　３.生徒数の推移と今後の生徒募集　5
　４.矢上高校の社会的使命（ミッション）　7
第２章　第２期矢上高校将来ビジョンの方向性　8
　１.基本理念　8
　２.基本方針　9
　３.重点目標　11
　４.計画期間　12
　５.評価についての考え方　12
　６.第２期矢上高校将来ビジョンでの方向性　13
第３章　第２期矢上高校将来ビジョンの体系　14
　１.第２期矢上高校将来ビジョンの体系について　14
　２.第２期矢上高校将来ビジョン体系図　15
　３.４つの重点目標　16
　４.具体的な取組　17
第４章　第２期矢上高校将来ビジョンを実現するための提言　29
　１.実行主体と実行方策　29
　２.実行のための環境づくり　31
　３.長期的展望と将来的検討すべき課題　33
参考資料　34

第１章 矢上高校の現状と社会的使命（ミッション）の確認

第１章においては、「矢上高校の現状と求められるこれからの姿」「生徒数の推移と今後の生徒募集」についての検討を行い、現在の「矢上高校の社会的使命（ミッション）」について確認する。

１.矢上高校の概要

矢上高校が所在する邑南町（おおなんちょう）は平成 16 年 10 月に石見町、瑞穂町、羽須美村の３町村が合併し誕生した。中国山地に囲まれた風光明媚なところで、近くには香木の森公園、霧の湯、断魚渓など観光地もたくさんあり、広島市内まで車で約 1 時間と、大変便利で暮らしやすい町となっている。最近は町の施策であるＡ級グルメの町づくり構想、日本一の子育て村構想などの取組により、新たな魅力を湛えた町をめざすべく、挑戦的な町づくりが行われている。

矢上高校は明治 25 年に組合立高等小学校として産声を上げ、昭和 23 年には、学制改革により矢上町立実業学校から島根県立矢上高等学校となった。現在も地元の熱い支援に支えられながら多くの人材を輩出している。また、初代校長の岡磯吉が「腕に覚えのある人間」「筋金の通った人間」「思いやりのある人間」を教育目標として生徒に訓示し、以来これらが「校訓」となり現在に受け継がれている。平成 27 年度以降は矢上高校教育振興会や矢上高校魅力化推進本部を設立して、邑南町をはじめとする地域と協働した学校の魅力化に取り組んでおり、教育活動の充実や生徒募集に力を入れている。令和２年度には、矢上高校魅力化コンソーシアムの立ち上げ、今後５年間の矢上高校魅力化の方向性を示した第２期矢上高校将来ビジョンの策定を行い、令和３年度以降の新たな魅力をもった学校・地域づくりに取り組むこととしている。

矢上高校は開校以来、72 年間の中で卒業生約 9700 人を送り出し、地元はもちろん、広く各界で活躍し社会の発展に寄与している。１学年３学級で全校生徒約 250 人の小規模校であり、その大きな特色は、普通科と産業技術科を併せもっている点である。現在、普通科の生徒は少人数指導や東大ネットアカデミー等の多くの学力向上対策の実施により、国公立大学、私立大学、専門学校等へ進学している。また、産業技術科の生徒は、農業科目を中心として、選択により野菜・草花栽培、食品製造、和牛の飼育、工業に関する科目を履修し、人間生活の基盤となる食、農、ものづくりを学んでいる。また、部活動の面でも複数の部が中国大会・全国大会に参加するなど成果を挙げている。矢上高校は過去も、現在も、未来も、地域に根ざした人間づくりをする学校として地元から大きな期待を寄せられていることから、矢上高校魅力化コンソーシアムを立ち上げ、地域と学校が同じ思いと方向性をもって、教育活動、教育環境等の充実に取り組んでいくことが重要になっている。

２.矢上高校の現状と求められるこれからの姿

矢上高校の現状と求められるこれからの姿について整理するために、下記の「Ⅰ.旧ビジョンで残された課題」において矢上高校の現状における課題の確認を行い、「Ⅱ.地域住民、保護者、生徒、教職員の意見」において、矢上高校関係者が求める矢上高校の将来の姿に関する意見を集約する。これをもとに「矢上高校の社会的使命（ミッション）」についての確認を行う。

Ⅰ．旧ビジョン 残された課題と今後の取り組み
Ⅱ．地域住民、保護者、生徒、教職員の意見
　１.地域の意見①（「300 人・1000 人委員会」での議論より）
　２.地域の意見②（地域の方へのアンケートより）
　３.保護者の意見（保護者アンケートより）
　４.生徒の意見（新入生アンケートより）
　５.教職員の意見（教職員アンケートより）

Ⅰ．旧ビジョン 残された課題と今後の取り組み[1]

１．入学生の安定的な確保
町内中学生の安定的な確保に重点を置いたバランスのとれた生徒募集／寄宿舎収容人数の問題の解消

２．教育内容や方法の充実
(1)普通科
①資質・能力の向上
少人数指導や添削指導の継続と教員の授業力向上／「東大ネットアカデミー」を含む、能動的な学習を促すような環境整備
②総合的な学習の時間の刷新
カリキュラム検討、時間確保／公民館と連携した地域課題解決型学習、SDGs、産業技術科との協働／主体的に学ぶ姿勢の育成
(2)産業技術科
検定試験の合格率の向上／地域との協働、地域への支援が深まる課題研究の深化
(3)普通科と産業技術科の協奏
学びの共有や合同の成果発表会の開催／学校を挙げての校訓、教育目標の具現化
(4)教師力の育成
新学習指導要領や 10 年先の受験・入試の形態を見据えた教師力の向上／学校教育目標、学校経営目標の達成にむけて全校で取り組む体制
(5)部活動
専門的な指導者の登用のさらなる充実

３．未来をつくる人材育成
邑南町、邑南町教育委員会、地域、大学等専門機関と連携する取り組みの継続／卒業生と地域を繋ぐシステムの構築

[1] 矢上高校将来ビジョン検証報告書「Ⅳ.残された課題と今後の取り組み」より

４．高校支援体制の充実

(1)校内体制

校内、校外それぞれを担当するコーディネーターの配置・増強が必要／関係者がビジョンを共有した上での魅力化事業や生徒募集のシステム構築

(2)地域応援団

環境整備だけでなく、生徒の学習活動や生活支援への参画

(3)地域との連携

情報発信と矢上高校将来ビジョンの共有／邑南町地区別戦略とのコラボレーション／地域と生徒の持続的な関係づくり

Ⅱ．地域住民、保護者、生徒、教職員の意見

１． 地域の意見①⇒地域とともにある学校づくり「300 人・1000 人委員会」の議論より

（1）子どもの人間性の向上・しつけ

挨拶する環境をつくり、習慣化させる／良いこと悪いことについて、子どもと共有し、考えさせる／読み聞かせの機会の提供／奉仕作業への参加促進／子どもと一緒にスポーツをする、観戦する

（2）子どもと地域との関わり

地域の良さをつたえる（まつり、自然）／地域の将来について話し合う（地域の課題、Ｕターン）

（3）学校との連携

学校の存在意義を理解し、地域がやるべきことを確認して行動する／商品開発を授業の中で学ぶ

邑南町教育委員会主催「300 人委員会」「1000 人委員会」

２． 地域の意見②⇒地域の方へのアンケートより

質問内容「５年後、矢上高校はどのような学校であってほしいですか 2025 年の矢上高校の様子／持続可能な矢上高校の姿を描いてください」

（1）資質・能力の向上と多様な進路目標の実現

社会で役立つ力の育成（問題解決力、コミュニケーション力、発想力等）／国際教育、ＩＣＴ教育／卒業後の多様な進路に対応する学力保障

（2）情報発信

小中学校への情報発信／地域への行事等の情報発信

(3) 地域との連携

邑南町に戻りたくなる気持ちを育てる学校／卒業生が訪ねやすい、つながりのある学校

(4) 生徒募集

1学年の定員増／町内の子どもが多くいる学校

３． 保護者の意見⇒保護者アンケートより

質問内容「５年後、矢上高校はどのような学校であってほしいですか 2025年の矢上高校の様子／持続可能な矢上高校の姿を描いてください」

(1) 矢上高校ならではの魅力

地域と連携し、他校にない強みをもつ学校／田舎の魅力を生かして、ひとりひとりが主役になれる学校／部活動の充実

(2) 学力保障

進路目標を達成する力をつける学校／有名大学への進学

(3) 生徒募集

学校存続／寄宿舎の充実

４． 生徒の意見⇒新入生アンケートより

質問内容「５年後、矢上高校はどのような学校であってほしいですか 2025年の矢上高校の様子／持続可能な矢上高校の姿を描いてください」

(1) ひとりひとりの個性を尊重し、主体性を大切にする楽しい学校

明るく楽しい学校、雰囲気が良く活気がある学校／ひとりひとりが意見を言える学校／生徒が主体的に行動する学校

(2) 学業と部活動の両立

勉強だけでなく、行事や部活動もしっかり楽しめる学校／将来活躍する生徒が多く卒業していく学校

(3) 地域との連携

地域の人たちから温かく接してもらえるようなふるまいや態度ができる学校／挨拶のできる学校

５． 教職員の意見⇒教職員アンケートより

質問内容「５年後、矢上高校はどのような学校であってほしいですか 2025年の矢上高校の様子／持続可能な矢上高校の姿を描いてください」

(1) 資質・能力の育成と進路保障

外部と連携して学力向上、進路保障、部活動の充実をおこなう学校／人間形成のサポートを行う学校／地域社会を支える人材育成を行う学校

(2) 矢上高校ならではの魅力

地域との連携の強化し、地域とともに学んでいく学校／魅力の発信と学校存続

(3) 教職員の働き方

やりがいがあり、勤務するのが楽しい学校／自己研鑽に努めることができる学校

３.生徒数の推移と今後の生徒募集

矢上高校の入学者数は、平成 24 年度入学生までは 100 名前後を推移していたが、平成 25 年度入学生以降は減少傾向となり、平成 26 年度入学生は 69 名となった（第１-１表）。その要因のひとつには、町内中学生数の減少が挙げられる（第１-２表）。

今後 10 年間の町内中学校３年生の数は、75 名から 89 名を安定して推移する見込みである（第１-３表）。したがって、定員の安定的確保を実現し、将来的に１学年３クラス 120 名定員（島根県の方針で平成 27 年度から矢上高校１学年 120 名定員から 90 名定員に変更された）の復活を目指すためには、町内中学生の安定的な確保に重点を置いた上でバランスのとれた生徒募集を行い、定員を充足し続けることが必要となる。また、寄宿舎の定員の問題を解消していくことも必要である（第１-４表）。

矢上高校は地域から愛されている学校であり、今後は第２期矢上高校将来ビジョンに従い学校の魅力づくりに努め、学校存続のための生徒確保策を実践していくことが求められる。

第１-１表　矢上高校入学生徒数の推移

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
邑南町	96	95	96	62	70	64	74	66	58	48	54	55	49	58	38	46
美郷町 川本町	0	6	7	6	10	8	5	4	3	4	5	2	2	1	1	2
浜田市 （旭・金城）	7	8	9	12	17	6	11	17	15	6	7	15	10	5	9	16
その他 県内	3	6	4	4	6	6	7	12	6	6	4	4	10	13	6	5
県外	0	1	0	0	3	1	7	3	7	5	13	14	18	9	15	24
合　計	106	116	116	84	106	85	104	102	89	69	83	90	89	86	69	93

第１-２表　町内中学３年生の数と矢上高校へ入学した生徒数との割合

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
㋐ 町内中学校３年生徒数の合計（人）	141	116	131	86	103	98	92	89	81	75	89	99	81	80	73	74
㋑ ㋐のうち矢上高校へ入学した生徒数 (人)	96	95	96	62	70	64	74	66	58	48	54	55	49	58	38	46
㋒ 町内中学校から矢上高校へ入学した者の割合（%）㋑／㋐	68.1	81.9	73.3	72.1	68.0	65.3	80.4	74.2	71.6	64.0	60.7	55.6	60.5	72.5	52.1	62.2

第１-３表　今後の町内中学校３年生徒数の推移

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
㋐当該年度町内中学校３年生徒数(人)	81	71	79	98	72	86	77	75	78
㋑㋐の 70%の生徒数(人)（切捨）	56	49	55	68	50	60	53	52	54

第１-４表　寄宿舎生の状況

	H27		H28		H29		H30		H31		R2	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
１年生	14	9	19	10	22	9	15	11	20	3	29	13
２年生	11	8	13	18	18	9	17	8	12	11	20	3
３年生	8	8	11	7	13	8	15	9	15	8	14	8
寄宿舎生合計	33	25	43	25	53	26	47	28	47	22	63	24
寄宿舎定員	50	36	50	36	54	32	58	32	58	32	68	26
下宿生	0	0	0	0	0	0	5	0	6	0	0	0

４.矢上高校の社会的使命（ミッション）

ここまでの「第１期ビジョン残された課題と今後の課題」「地域・保護者・生徒・教職員の意見」および「生徒数の推移の現状」を整理すると、以下のような観点が見られる。

① 子どもの人間的な成長

② 地域と学校が一体となった教育の実現

③ 矢上高校ならではの先進的で多様な教育の実現

④ 課題解決能力を備えた地域を支える人材の育成

⑤ 学校存続のための生徒確保

⑥ 生徒にとっても教職員にとっても安心安全な過ごしやすい環境の実現

矢上高校は歴史的に見ても、設立時から今日に至るまで、地域の熱い支援によって支えられてきた学校である。矢上高校の使命は今後も、地域社会のため、子どもたちのために邑南の地で、上記の観点に立った豊かな教育を展開し続けることであると考えられる。

以上の点から、矢上高校には次のような社会的使命（ミッション）があり、実行を求められていると考えられる。

「矢上高校の社会的使命（ミッション）」

① 矢上高校ならではの学びの多様性を生み出し、矢上高校の永久存続をめざすこと。

② 地域の教育資源を活用し、主体的に課題を解決していこうとする人材を育成すること。

③ 予測が難しい未来を切り拓いていくことができるよう、生徒の発想力やコミュニケーション力などの資質・能力を向上させるとともに、進路目標の実現をめざすこと。

④ 生徒も教職員も明るく、前向きに物事に取り組むことができる安心安全な学校環境を守ること。

第２章 第２期矢上高校将来ビジョンの方向性

第１章で確認した「矢上高校の社会的使命（ミッション）」を実行するため、第２章においては、第２期矢上高校将来ビジョン（以降、「第２期ビジョン」と記す）の方向性を明らかにする。ここでは、

①基本理念（旗印）

②基本方針（５年間のビジョンの方向性）

③重点目標（中心となる方策）　　を定める。

また、「計画期間」「第２期矢上高校将来ビジョンの評価についての考え方」について確認する。

１.基本理念

第２期矢上高校将来ビジョン　基本理念

地域社会の未来を共に生き抜く　たくましい人間づくり

参考　第１期矢上高校将来ビジョン　基本理念

ふるさとを思い　地域の未来をつくる　人づくり

ミッションの達成のためには、「協働」するという考え方、「腕に覚えのある人間」「筋金の通った人間」「思いやりのある人間」という３つの校訓の内容、令和２年度から始まる「しまね教育魅力化ビジョン」の基本理念「ふるさと島根の学びを原点に未来にはばたく心豊かな人づくり」の内容を付け加えて、第２期ビジョンの基本理念とする。「共に」という言葉には地域をはじめとする関わりある人たちとの協働という意味を、「たくましい人間」という言葉には３つの校訓の内容を入れている。

２.基本方針

第２期矢上高校将来ビジョン　基本方針

Ⅰ 矢上高校の永久存続に向け、積極的な生徒募集により定員の安定的充足実現し、将来的に募集定員の増加をめざす。

Ⅱ 地域・保護者との協働、邑南町の特色や施策との連携を意識しながら、教育内容の魅力化・特色化に取り組む。

Ⅲ 確かな知識・技能を身に付けるとともに、地域社会の課題に主体的に向き合い、他者と協働して解決に向けて取り組む力を身に付け、生かせるようにする。

Ⅳ 行政・企業・地域住民などの地域社会との幅広い連携・協力のもとで、生徒・教職員が十分に力を発揮できる教育環境を整備する。

参考　第１期矢上高校将来ビジョン　基本方針

Ⅰ 矢上高校の永久存続を目指す。
Ⅱ 普通科、産業技術科それぞれの特色を活かすとともに、両者を協奏することで特色を出す。
Ⅲ 町内卒業生の入学を促し、町外からの進学者を積極的に誘致する。
Ⅳ 町の施策「日本一の子育て村構想」と「Ａ級グルメ構想」の理念を前面に出した学校づくりを行う。
Ⅴ グローバルな人材を意識し、第２期しまね教育ビジョン 21 が示す基本理念

第１期ビジョンにおいては、１学級あたりの定員の 10 名減、1 学年定員 90 名という厳しい現実に直面し、矢上高校存続のための生徒数確保が何よりも優先する課題であると考えられた。第１期ビジョンによる取組の結果、定員を 120 名に戻すことは叶わなかったが、産業技術科の定員を５名増とすることができ、十分とは言えないまでも成果を挙げてきた。

このたびの第２期ビジョンにおいては、学校の根幹である「育てたい生徒像」「魅力的な教育内容」について見つめ直し、学校環境をさまざま角度から充実させたうえで、中学生やその保護者から選ばれる学校をめざす。

令和２年度の「育てたい生徒像」は以下のとおりである。

(1)　教養と技能を身に付け、目標に向かって主体的かつ誠実に行動する人
(2)　自他を尊重し、他者と協働して共に学び高め合う人
(3)　地域の産業や文化に興味をもち、地域や社会に貢献しようとする人

「第２期ビジョン基本方針Ⅰ」について、生徒募集は引き続き積極的に取り組むこととする。この先 10 年間は比較的町内生徒の数が安定しており、極端な減少が見られないこと、町内中学生の矢上高校への進学率が６割前後であること、現在の寄宿舎の在舎人数がほぼ定員いっぱいであることから、町内生徒の入学率の向上を第一の目標とし、みなし寄宿舎増築、バス通学を希望する生徒たちのための通学支援便の増便、コース新設を行って県内生徒、県外生徒の募集も積極的に行うこととする。

「第２期ビジョン基本方針ⅡⅢⅣ」については、教育内容と学校環境の向上の観点から新設することとし、第１期ビジョン基本方針Ⅳについては、「第２期ビジョン基本方針Ⅱ」に含むものとする。また、第１期ビジョン基本方針Ⅱについては、「第２期ビジョン基本方針Ⅱ」または「Ⅲ」の大項目または小項目に含むものとする。

第１期ビジョン基本方針Ⅴについては、行動の方針でないことから削除する。

３.重点目標

第２期矢上高校将来ビジョン　重点目標

１.積極的な生徒募集による定員の安定的充足

２.地域との連携による特色ある教育の推進

３.学力[2]・社会力[3]・人間力[4]の醸成とふるさとの未来を担う人材の育成

４.生徒・教職員が十分に力を発揮できる教育環境の整備

参考　第１期矢上高校将来ビジョン　重点目標

１．　入学者の安定的確保

２．　教育内容や方法の充実

３．　未来をつくる人材育成

４．　高校支援体制の充実

「第２期ビジョン重点目標」は、「入学段階（生徒募集）における取組」「教育内容の充実への取組」「卒業段階で求める人物像に近づくための取組」「教育環境整備のための取組」という４つの視点をもって、第２期ビジョン基本方針にしたがって策定する。

「第２期ビジョン重点目標１．」については、第１期重点目標１を継続する。５年間の定員の安定的な充足を目標として取り組み、将来的な入学定員増をめざす。

「第２期ビジョン重点目標２．」については、地域・家庭・行政との連携をより強化した特色ある教育を実践するため、新設する。これまでの教育内容や方法を充実させることはもちろんであるが、予測が難しい未来を切り拓いていく力を身に付けるという観点から、総合的な探究の時間はもとより、教科や特別活動においても協働や探究活動広げていくため、第１期ビジョン重点目標２．から改定する。

「第２期ビジョン重点目標３．」については、地域社会に有為な人材を育成する、生徒の進路目標をより高いレベルで実現するという観点から新設する。第１期ビジョン重点目標３.については、「第２期ビジョン重点目標３．」に含まれているため削除し、必要に応じて内容を大項目または小項目に盛り込むこととする。

---

[2] ここで述べる「学力」とは、「知識・技能を身に付け、生かす力」「自分の考えを構築し、伝える力」「夢や志を形成し、やり遂げようとする力」のことである。（『しまね教育魅力化ビジョン』令和２年度－令和６年度　より）

[3] ここで述べる「社会力」とは、「人々との交流から自分の世界を広げる力」「合意形成を図り、物事を進める力」「対立を乗り越え、新たな価値を見いだす力」のことである。（『しまね教育魅力化ビジョン』令和２年度－令和６年度　より）

[4] ここで述べる「人間力」とは、「多様な自然や文化を知ろうとする力」「見えにくいことにも気づき、考え行動する力」「地域や人々に感謝し、誰もが心地よい居場所を作ろうとする力」のことである。（『しまね教育魅力化ビジョン』令和２年度－令和６年度　より）

「第２期ビジョン重点目標４．」については、教育の充実のためには、その土壌が重要であるという考えから、学校環境と地域環境の向上、主体的で生き生きした大人の有り様、教職員の働き方改革を実現するため、新設する。第１期ビジョン重点目標４．の内容も含むものとする。

４.計画期間

第２期矢上高校将来ビジョンの計画期間は

令和３年度から令和７年度までの５年間とする。

５.評価についての考え方

第２期ビジョンの達成状況を適正に評価するために、５年後の計画期間終了時に達成すべき数値目標を「重点目標」「大項目」に設定する。毎年度の評価に当たっては、「小項目」「具体的な取組」にそれぞれ評価指標を設けて評価を行うほか、島根県教育委員会が全県で行っている「高校魅力化評価システム」と「学校評価アンケート」の結果を活用する。「高校魅力化評価システム」及び「学校評価アンケート」の評価すべき項目をあらかじめ割り付けておき、アウトカムを評価する。また、評価方法については継続的に検討を行う。

６.第２期矢上高校将来ビジョンでの方向性

ここまでの検証から、第２期矢上高校将来ビジョンの方向性として、以下のような「基本理念」「基本方針」「重点目標」を設定する。

(1) 基本理念

「地域社会の未来を共に生き抜く　たくましい人間づくり」

(2) 基本方針

Ⅰ 矢上高校の永久存続に向け、積極的な生徒募集により定員の安定的充足実現し、将来的に募集定員の増加をめざす。

Ⅱ 地域・保護者との協働、邑南町の特色や施策との連携を意識しながら、教育内容の魅力化・特色化に取り組む。

Ⅲ 確かな知識・技能を身に付けるとともに、地域社会の課題に主体的に向き合い、他者と協働して解決に向けて取り組む力を身に付け、生かせるようにする。

Ⅳ 行政・企業・地域住民などの地域社会との幅広い連携・協力のもとで、生徒・教職員が十分に力を発揮できる教育環境を整備する。

(3) 重点目標

１．積極的な生徒募集による定員の安定的充足

２．地域との連携による特色ある教育の推進

３．学力・社会力・人間力の醸成とふるさとの未来を担う人材の育成

４．生徒・教職員が十分に力を発揮できる教育環境の整備

第３章 第２期矢上高校将来ビジョンの体系

第２章において設定した４つの重点目標を達成するため、第３章では「重点目標」の下に「大項目」を加えてそれぞれの数値目標を設定する。また、「大項目」の下に「小項目」「具体的な取組」を加え、「具体的な取組」には評価指標を設定して、第２期ビジョンを体系化する。「第２期矢上高校将来ビジョンの体系」は以下のとおりとする。

①基本理念（旗印）

②基本方針（５年間のビジョンの方向性）

③重点目標（中心となる方策）

④大項目（主要施策）

⑤小項目（戦略）

⑥具体的な取組（戦術）

１．第２期矢上高校将来ビジョンの体系について

基本理念	基本方針	重点目標	大項目	小項目	具体的な取り組み
地域社会の未来を共に生き抜く たくましい人間づくり	矢上高校の永久存続に向け、積極的な生徒募集により定員の安定的充足を実現し、将来的に募集定員の増加をめざす。	積極的な生徒募集による定員の安定的充足	２項目	６項目	19項目
	地域・保護者との協働、邑南町の特色や施策との連携を意識しながら、教育内容の魅力化・特色化に取り組む。	地域との連携による特色ある教育の推進	５項目	19項目	31項目
	確かな知識・技能を身に付けるとともに、地域社会の課題に主体的に向き合い、他者と協働して解決に向けて取り組む力を身に付け、生かせるようにする。	学力・社会力・人間力の醸成とふるさとの未来を担う人材の育成	２項目	11項目	18項目
	行政・企業・地域住民などの地域社会との幅広い連携・協力のもとで、生徒・教職員が十分に力を発揮できる教育環境を整備する。	生徒・教職員が十分に力を発揮できる教育環境の整備	３項目	６項目	16項目

基本理念：「地域社会の未来を共に生き抜く　たくましい人間づくり」

基本方針	重点目標	大項目	小項目
方針Ⅰ 矢上高校の永久存続に向け、積極的な生徒募集により定員の安定的充足を実現し、将来的に募集定員の増加をめざす。	1．積極的な生徒募集による定員の安定的充足	（1）情報発信の充実	①SNS（ホームページ・Facebook等）の積極的更新
			②紙媒体（矢高だより、矢高ニュースレター）の定期的発行
		（2）募集説明会の充実	①生徒主導のオープンスクール等の実施
			②町内３中学校の単独説明会の実施
			③県外募集説明会（地域みらい留学）の積極的活用
			④募集説明会から出願につながる円滑なシステムの構築
方針Ⅱ 地域・保護者との協働、邑南町の特色や施策との連携を意識しながら、教育内容の魅力化・特色化に取り組む。	2．地域との連携による特色ある教育の推進	（1）普通科の魅力化・特色化	①２つのコースの特色が分かる教育課程の編成
			②地域との協働による探究学習の発展
			③地域との協働による学校設定教科（起業探究）の発展
			④大学との連携による探究学習の充実および研修旅行の実施
		（2）産業技術科の魅力化・特色化	①３つのコースの特色が分かる教育課程の編成
			②地域との協働による石見和牛プロジェクトの発展
			③地域との協働による神紅開発プロジェクトの発展
			④地域との協働によるプロジェクト学習の推進
			⑤大学・専門学校等との連携による課題研究の充実
		（3）普通科・産業技術科の協奏	①「未来フォーラム」の共同実施
			②邑南町教育委員会との連携による「おおなんドリーム」への共同参加
			③普通科と産業技術科の連携企画の実施と連携システムの検討
		（4）課外活動の充実	①地域人材を活用した部活動の技術指導者の招聘
			②地域系活動（食と農研究会・神楽愛好会）の充実
			③地域のボランティア活動等への積極的参加
		（5）教員の指導力・伴走力向上	①互見授業、公開授業の充実
			②主体的・対話的な授業の研修
			③探究学習の研修
			④ICT活用技術のスキルアップ
方針Ⅲ 確かな知識・技能を身に付けるとともに、地域社会の課題に主体的に向き合い、他者と協働して解決に向けて取り組む力を身に付け、生かせるようにする。	3．学力・社会力・人間力の醸成とふるさとの未来を担う人材の育成	（1）学力の醸成	①個別指導・添削指導を通じた細やかな指導、粘り強い指導の徹底
			②各種資格の取得推奨等
			③東大ネットアカデミーの実施
			④模擬試験の実施補助
			⑤公営塾の新設に向けての検討
		（2）社会力・人間力の醸成	①キャリア教育の充実
			②矢高祭・産業祭などの学校行事活性化
			③インターンシップ・看護体験など就業体験機会の創出
			④石見養護学校との連携
			⑤フィンランド との交流事業を通じたグローバル的視野の拡大
方針Ⅳ 行政・企業・地域住民などの地域社会との幅広い連携・協力のもとで、生徒・教職員が十分に力を発揮できる教育環境を整備する。	4．生徒・教職員が十分に力を発揮できる教育環境の整備	（1）コンソーシアム 事業の充実	①運営体制の構築（組織整備・運営マネージャー配置・コーディネーター複数配置）
			②自走のための資金確保
		（2）生活利便性等向上	①バス通学環境等の改善
			②その他生活等支援検討
		（3）寄宿舎環境の充実	①みなし寄宿舎の増設（学習専用室・研修室の整備を含む）
			②寄宿舎生支援の充実

３．４つの重点目標

重点目標１　積極的な生徒募集による定員の安定的充足

過去５年間を振り返ったとき、志願倍率は概ね１倍を超えているので、常に１倍を超えていくことを目標とした。また、町内の中学生３年生については、過去５年間では全体の６割前後が矢上高校に入学しており、令和２年度においては３年生の 80%、２年生 52%、１年生も 62%が町内中学校出身者である。

以上のような状況から、数値目標を町内の志願者数が町内中学生の 70%以上と設定した。

数値目標	志願倍率毎年 1.0 倍以上、町内志願者数が町内中学生の 70%以上

重点目標２　地域との連携による特色ある教育の推進

これまでの「学校評価アンケート」では肯定的な評価を頂くことが多かったため、引き続き成果を挙げるべく、対象項目における肯定評価の割合が 80%以上をめざす。同様に「魅力化評価システム」についても、質問３、質問４について同じ理由で肯定評価の割合が 80%以上を数値目標とした。

数値目標	「学校評価アンケート」「魅力化評価システム」 両アンケートの対象項目の肯定評価 80%以上

重点目標３　学力・社会力・人間力の醸成とふるさとの未来を担う人材の育成

学力と人材育成については、進路実績を含めて評価する。100%の進路実現を達成し、その満足度が卒業時アンケートの肯定評価の割合 60%以上となることをめざす。また、「魅力化評価システム」質問２の肯定評価 80%をめざす。社会力・人間力については、「魅力化評価システム」によって生徒の成長と事業の効果を計る。肯定評価 80%をめざす。

数値目標	100%の進路実現 卒業時アンケート　肯定評価 60%以上 魅力化評価システム　質問２～８の肯定評価 80%以上

重点目標４　生徒・教職員が十分に力を発揮できる教育環境の整備

環境の整備については、そのための事業が実施されたのか、されなかったのかという両極の結果になる。よって、魅力化コンソーシアムの個々の事業の実施率で評価を行うこととする。第１期ビジョンについての事業の実施率は約 90%であるので、これに倣い高い実施率をめざしたい。

数値目標	コンソーシアム事業実施状況　90%以上

４.具体的な取組

重点目標１　積極的な生徒募集による定員の安定的充足

大項目　（１）情報発信の充実

評価基準	HP・SNS 毎日更新、矢高だより毎月発行、矢高ニュースレター年６回（６月～11 月）

小項目 ①SNS（ホームページ・Facebook 等）の積極的更新

具体的な取組		評価指標
ア	ホームページの内容を更新し情報を全国へ発信するとともに、SNS の利用についても検討する。	ホームページの随時更新
イ	学校案内動画の内容を常に見直し学校の魅力をわかりやすく伝える。	年に１回作成
ウ	情報発信（ホームページ、SNS など）の運用基準を明確化する。	運営基準の作成および見直し

小項目 ②紙媒体（矢高だより、矢高ニュースレター）の定期的発行

具体的な取組		評価指標
ア	チラシ、ポスター、「学校案内」「矢高ニュースレター」等を活用し、広く学校の魅力を発信する。	矢高ニュースレター等の発行回数
イ	マスメディア（テレビ、新聞、各種情報誌など）に矢上高校に関する情報を積極的に発信する。	メディア掲載回数

大項目　（２）募集説明会の充実

評価基準	町内参加者（オープンスクール、単独説明会）90%以上、アンケート満足度 90%

小項目 ①生徒主導のオープンスクール等の実施

具体的な取組		評価指標
ア	オープンスクール、バスツアーでは矢高生が主体となり参加中学生を迎える。	オープンスクール参加者数、アンケート実施での満足度
イ	オープンスクールの開催にあたっては、より充実したものとするため学校挙げての取り組みを検討する。	

小項目 ②町内３中学校の単独説明会の実施

具体的な取組		評価指標
ア	中学校高校説明会で使用するアイテム（学校案内、動画、学校案内ガイドブックなど）を工夫する。また、中学生に魅力的で伝わりやすい内容で説明する。	説明会の内容検討会議の回数
イ	町内中学校への教職員・生徒の中学校への訪問回数を増やす。	訪問回数
ウ	町内中学校が開催する高校説明会以外での中学校での説明の機会を設ける。	矢上高校主催の説明会回数
エ	部活動を通した矢高生と町内中学生との交流の機会を増やす。	交流した部活動の数、交流機会の数
オ	町内中学校教職員に矢上高校の教育を理解してもらうための機会を設ける。	機会を設けた回数
カ	保護者対象の説明会を設ける。	機会を設けた回数

小項目 ③県外募集説明会（地域みらい留学）の積極的活用

具体的な取組		評価指標
ア	地域みらい留学フェスタ等（東京、大阪、広島など）に参加し、ブースへの来訪者を増やす工夫する。	フェスタ等における矢上高校ブースへの参加中学生（家族）の人数
イ	矢上高校の魅力を広く発信するために卒業生会と連携し、積極的なＰＲ活動を展開する。	連携 PR 活動回数
ウ	地域みらい留学フェスタ等に卒業生が参加する。	参加する卒業生の人数
エ	オンライン高校説明会について検討する。	オンライン高校説明会の開催回数

小項目 ④募集説明会から出願につながる円滑なシステムの構築

具体的な取組		評価指標
ア	身元引受人制度等、募集から出願までの「生徒募集システム」を構築する。	個別訪問やオープンスクール等で訪れた中学生のうち受検した生徒の割合 生徒募集業務の体制整備
イ	身元引受人制度を構築する。	身元引受人制度のシステム化

重点目標２　地域との連携による特色ある教育の推進

大項目　（１）普通科の魅力化・特色化

評価基準	高校魅力化評価システム ［対象項目］①学習活動のすべての項目で 3.0 以上 ②学習環境のすべての項目で、3.2 以上 ③生徒の自己認識のすべての項目で、3.0 以上 ④生徒の行動実績のすべての項目で、3.0 以上

小項目　①２つのコースの特色が分かる教育課程の編成

具体的な取組		評価指標
ア	生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育課程検討委員会で検討する。	教育課程検討委員会の回数

小項目 ②地域との協働による探究学習の発展

具体的な取組		評価指標
ア	地域と協働した総合的な探究の時間を着実に進める。	地域と協働した授業の回数

小項目 ③地域との協働による学校設定教科（起業探究）の発展

具体的な取組		評価指標
ア	地元起業家による出張授業を実施する。	出張授業回数

小項目 ④大学との連携による探究学習の充実および研修旅行の実施

具体的な取組		評価指標
ア	総合的な探究の時間において島根大学、島根県立大学と連携する。	連携回数
イ	立命館大学訪問を中心とした研修旅行を実施する。	実施の有無

大項目　（２）産業技術科の魅力化・特色化

評価基準	高校魅力化評価システム ［対象項目］①学習活動のすべての項目で 3.0 以上 ②学習環境のすべての項目で、3.2 以上 ③生徒の自己認識のすべての項目で、3.0 以上 ④生徒の行動実績のすべての項目で、3.0 以上

小項目 ①３つのコースの特色が分かる教育課程の編成

具体的な取組		評価指標
ア	生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育課程検討委員会で検討する。	教育課程検討委員会の回数

小項目 ②地域との協働による石見和牛プロジェクトの発展

具体的な取組		評価指標
ア	関係機関や農家との連携による飼育指導等を計画的に実施する。	飼育指導等の回数、コンテスト上位入賞

小項目 ③地域との協働による神紅開発プロジェクトの発展

具体的な取組		評価指標
ア	関係機関（島根県農林振興課、県央事務所、邑南町農林振興課、JA しまね、島根県立農林大学校）との連携による栽培指導等を計画的に実施する。	栽培指導の回数

小項目 ④地域との協働によるプロジェクト学習の推進

具体的な取組		評価指標
ア	邑南町と連携して邑南野菜の取組を行う。	連携回数
イ	移動矢高ショップを開催する。	ショップの開催回数

小項目 ⑤大学・専門学校等との連携による課題研究の充実

具体的な取組		評価指標
ア	大学・専門学校等との連携を検討する。	実施状況

大項目　（３）普通科・産業技術科の協奏

評価基準	高校魅力化評価システム ［対象項目］①学習活動のすべての項目で 3.0 以上 ②学習環境のすべての項目で、3.2 以上 ③生徒の自己認識のすべての項目で、3.0 以上 ④生徒の行動実績のすべての項目で、3.0 以上

小項目 ①「未来フォーラム」の共同実施

具体的な取組		評価指標
ア	未来フォーラムを普通科と産業技術科で共同開催して、両科が互いの学びを深める。	アンケート満足度

小項目 ②邑南町教育委員会との連携による「おおなんドリーム」への共同参加

具体的な取組		評価指標
ア	矢上高校代表として、町内で開かれる「おおなんドリーム」に参加し、研究内容を披露する。	アンケート満足度

小項目 ③普通科と産業技術科の連携企画の実施と連携システムの検討

具体的な取組		評価指標
ア	普通科の地域課題解決型学習と産業技術科の課題研究の一部連携を行う。	連携件数

未来フォーラムで発表する生徒

未来フォーラム表彰式の様子

大項目　（４）課外活動の充実

評価基準	部活動等の入部率 90%以上、部活動等満足度 80%、ボランティア活動参加率 50% 学校評価アンケート[対象項目]学校評価（７） 高校魅力化評価システム [対象項目] ①学習活動のすべての項目で 3.0 以上 ②学習環境のすべての項目で、3.2 以上 ③生徒の自己認識のすべての項目で、3.0 以上 ④生徒の行動実績のすべての項目で、3.0 以上

小項目 ①地域人材を活用した部活動の技術指導者の招聘

具体的な取組		評価指標
ア	部活動に関わる地域人材を確保する。	人数
イ	著名指導者の実技指導を実施する。	指導回数
ウ	地域に根ざした部活動を推進するため地域関連団体との連携を深める。	連携回数

小項目 ②地域系活動（食と農研究会・神楽愛好会）の充実

具体的な取組		評価指標
ア	「食と農研究会」を支援し、地域資源を活用した商品開発やスイーツ開発、「スイーツ甲子園」への出品を行う。	地域資源を活用した商品開発やスイーツ開発の件数、コンテスト出品回数
イ	「神楽愛好会」の活動を通し、地域の伝統文化継承を行う。	公演回数

小項目 ③地域のボランティア活動等への積極的参加

具体的な取組		評価指標
ア	ボランティア活動・福祉体験等に積極的に参加できるような仕組みを構築する。	仕組みの構築
イ	寄宿舎生の地域行事・ボランティア活動等への参加機会を増やす。	参加率

大項目　（５）教員の指導力・伴走力向上

評価基準	授業評価アンケート満足度 80%以上、ICT 機器を活用している教職員の割合 100% 高校魅力化評価システム ［対象項目］①学習活動のすべての項目で 3.0 以上 ②学習環境のすべての項目で、3.2 以上 ③生徒の自己認識のすべての項目で、3.0 以上 ④生徒の行動実績のすべての項目で、3.0 以上

小項目 ①互見授業、公開授業の充実

具体的な取組		評価指標
ア	公開授業週間・互見授業・研究授業等の充実をはかる。	授業を見にいった教員の人数、研究授業回数
イ	教員間で教材・試験問題・授業方法の蓄積・共有を推進する。	教材等の蓄積システムの構築

小項目 ②主体的・対話的な授業の研修

具体的な取組		評価指標
ア	授業において主体的・対話的で深い学びの実現するための教職員研修を行う。	教職員研修の回数
イ	先進事例を推進している高校や地域への視察などを行う。	視察回数

小項目 ③探究学習の研修

具体的な取組		評価指標
ア	探究学習における企画力、伴走力を高めるための校内研修、ワークショップを行う。	校内研修の回数
イ	校外で実施される探究学習に関する研修に参加する。	校外研修への参加回数

小項目 ④ICT 活用技術のスキルアップ

具体的な取組		評価指標
ア	ICT 環境の整備を行う。	1 人一台タブレット（もしくは PC）が利用できる状態
イ	校内の ICT 機器使用ルールを作成する。	ルールの作成
ウ	授業や課外活動での ICT 機器の活用を推進する。	ICT 活用した課外活動の数
エ	G suite をはじめとするツールを使用してのオンライン教育を推進する。	G suite 活用教員の数、校内における G suite 活用研修回数

重点目標３　学力・社会力・人間力の醸成とふるさとの未来を担う人材の育成

大項目　（１）学力の醸成

評価基準	ベネッセ総合学力テスト１年生７月から２年生１月までの合計点偏差値平均３ポイント以上増、 高校魅力化評価システム ［対象項目］①学習活動のすべての項目で 3.0 以上 ②学習環境のすべての項目で、3.2 以上 ③生徒の自己認識のすべての項目で、3.0 以上 ④生徒の行動実績のすべての項目で、3.0 以上

小項目 ①個別指導・添削指導を通じた細やかな指導、粘り強い指導の徹底

	具体的な取組	評価指標
ア	生徒一人一人にあった習熟度別授業展開・個別指導・添削指導などのきめ細やかな指導により、生徒の知識・技能の向上をはかる。	難関大学・国公立大学等への進学率 定期試験の成績の変化

小項目 ②各種資格の取得推奨等

	具体的な取組	評価指標
ア	普通科における英語検定、漢字検定等の合格者数の増加と GTEC のスコアアップをめざす。	資格取得者数・合格者数
イ	産業技術科の各学年の７時間目を使った補習を実施し、各種資格取得者の増加をめざす。英語検定、漢字検定等の合格者数の増加をめざす。	

小項目 ③東大ネットアカデミーの実施

	具体的な取組	評価指標
ア	東大ネットアカデミーを実施し、受験に向けた学力向上をはかる。	放課後補習・東大ネットアカデミー実施以前と以降のマーク素点の変化

小項目 ④模擬試験の実施補助

	具体的な取組	評価指標
ア	休日における模擬試験の監督料を支給する。	支給の有無

小項目 ⑤公営塾の新設に向けての検討

	具体的な取組	評価指標
ア	邑南町と連携して公営塾の開設を検討する。	開設の有無

大項目　（２）社会力・人間力の醸成

評価基準	学校評価アンケート：自己評価（４）、学校評価（９～11） 高校魅力化評価システム

	［対象項目］①学習活動のすべての項目で 3.0 以上 ②学習環境のすべての項目で、3.2 以上 ③生徒の自己認識のすべての項目で、3.0 以上 ④生徒の行動実績のすべての項目で、3.0 以上

小項目 ①キャリア教育[1]の充実

具体的な取組		評価指標
ア	キャリアパスポート[2]の内容を蓄積するための仕組みづくりを行う。	キャリアパスポートに関する研修実施
イ	全教職員による小論文・面接指導が計画的にできる指導方針を確立する。	マニュアルの策定

小項目 ②矢高祭・産業祭などの学校行事活性化

具体的な取組		評価指標
ア	生徒が自主性を発揮し、創意工夫のある矢高祭・産業祭を計画する。	アンケート

[1] キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育のことである。普通教育・専門教育を問わず様々な教育活動の中で実施される。
なお、キャリアとは、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出して行く連なりや積み重ねのことである。

[2] キャリアパスポートとは、児童生徒が小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。
なお、ポートフォリオとは、生徒が日々の学習の中で残したレポートや作品、テストなどの書類、活動の様子がわかる写真や動画などを、まとめて保存したファイルのことである。

小項目 ③インターンシップ[3]・看護体験など就業体験機会の創出

具体的な取組		評価指標
ア	町内企業等と連携して、インターンシップを実施し、進路意識の向上と社会性の向上を図る。	アンケート
イ	県内外の魅力的な企業や企業人との交流を通し、地域社会の未来を共に生き抜く力を育成する機会を持つ。	企業や企業人との交流機会の回数
ウ	地域や卒業生などの魅力的な大人と対話する機会を設け、進路意識の醸成や地域への愛着を持つようなプログラムを検討する。	地域や卒業生などの魅力的な大人との交流機会の回数、プログラム検討

小項目 ④石見養護学校との連携

具体的な取組		評価指標
ア	石見養護学校との生徒同士の交流事業を実施する。	交流授業の回数
イ	インクルーシブ教育[4]についての校内研修を行う。	校内研修の回数
ウ	石見養護学校から教職員を派遣してもらい、必要に応じて支援が必要な生徒についてのケース会議を行う。	会議の回数

小項目 ⑤フィンランドとの交流事業を通じたグローバル的視野の拡大

具体的な取組		評価指標
ア	邑南町によるフィンランド共和国交流派遣事業に参加し、報告会を実施する。	派遣参加人数
イ	派遣事業で関わるフィンランドの高校生との交流を実施する。	交流回数

[3] インターンシップとは、学生・生徒が一定期間、企業で就業経験を積む制度のことである。就職活動が本格化する前に自己を見つめ直し、職場の雰囲気や実務への理解を深めることで、就業意欲を高めるとともに、就職後のミスマッチを防ぐ効果が期待されている。

[4] インクルーシブ教育とは、障がいのある者とない者が共に学ぶことを通して、共生社会の実現に貢献しようという考え方であり、2006 年の国連総会で採択された障がい者の権利に関する条約で示されたものである。
なお、共生社会とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障がい者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。

重点目標４　生徒・教職員が十分に力を発揮できる教育環境の整備

大項目　（１）コンソーシアム[5]事業の充実

評価基準	事業実施状況 90%以上

小項目 ①運営体制の構築（組織整備・運営マネージャー配置・コーディネーター複数配置）

具体的な取組		評価指標
ア	地域の諸団体とビジョンを共有し、多様な主体が参画した高校づくりのための主体的な協働体制をコンソーシアム内に構築する。	ビジョン共有等、協働体制構築のための役員会等の回数
イ	運営マネージャー配置・コーディネーター等を複数配置する。	配置人数
ウ	学校と協力して生徒を育むことに賛同する地域住民を「協育パートナー」として認定し、教育活動や学校支援のために活用する。	協育パートナー人数

小項目 ②自走のための資金確保

具体的な取組		評価指標
ア	コンソーシアムを持続して運営できるよう、賛助金などの財源獲得の仕組みを構築する。	仕組みの構築

大項目　（２）生活利便性等向上

評価基準	事業実施状況 90%以上

小項目 ①バス通学環境等の改善

具体的な取組		評価指標
ア	バス通学用定期券にかかる費用を全額補助し、バス通学環境を整備する。	利便性アンケート
イ	町内からの通学バス新設路線や既存路線ダイヤ、便数の検討を行う。	実施状況
ウ	隣接市町からの通学バス新設路線や既存路線ダイヤ、便数の検討を行う。	実施状況

[5] コンソーシアムとは、2つ以上の企業、団体、政府などから成る団体であり、共同で何らかの目的に沿った活動を行ったり、共通の目標に向かって資源を蓄える目的で結成される。

小項目 ②その他生活等支援検討

具体的な取組		評価指標
ア	資格取得者を増やすため、資格取得に関わる経費支援について検討する。	実施状況
イ	18 歳までの医療費の経費支援について検討する。	実施状況
ウ	感染症予防接種を行ったものに対する経費支援について検討する。	実施状況
エ	部活動等の必要経費に対する経費支援を行うよう検討する。	実施状況

大項目 （３）寄宿舎環境の充実

評価基準	事業実施状況 90%以上

小項目 ①みなし寄宿舎の増設（学習専用室・研修室の整備を含む）

具体的な取組		評価指標
ア	感染症対策等、社会情勢や生徒個々の状況に対応したみなし寄宿舎を増設する。	実施状況
イ	寄宿舎のすべての舎室について１部屋２人～３人制について検討する。	実施状況
ウ	生徒が安全安心に寄宿舎生活を送ることができるよう、学習室・研修室・食堂・静養室等の環境整備を行う。	実施状況

小項目 ②寄宿舎生支援の充実

具体的な取組		評価指標
ア	通院が必要な寄宿舎生のために送迎などができるよう、引き続き寄宿舎生支援部会の活動を充実させる。	寄宿舎生支援部会の活用件数
イ	寄宿舎生の心身の健康増進を図るため、寄宿舎へのカウンセラーの配置を検討する。	実施状況

矢上高校地域応援団や教職員・生徒らによる寄宿舎の清掃

第４章　第２期矢上高校将来ビジョンを実現するための提言

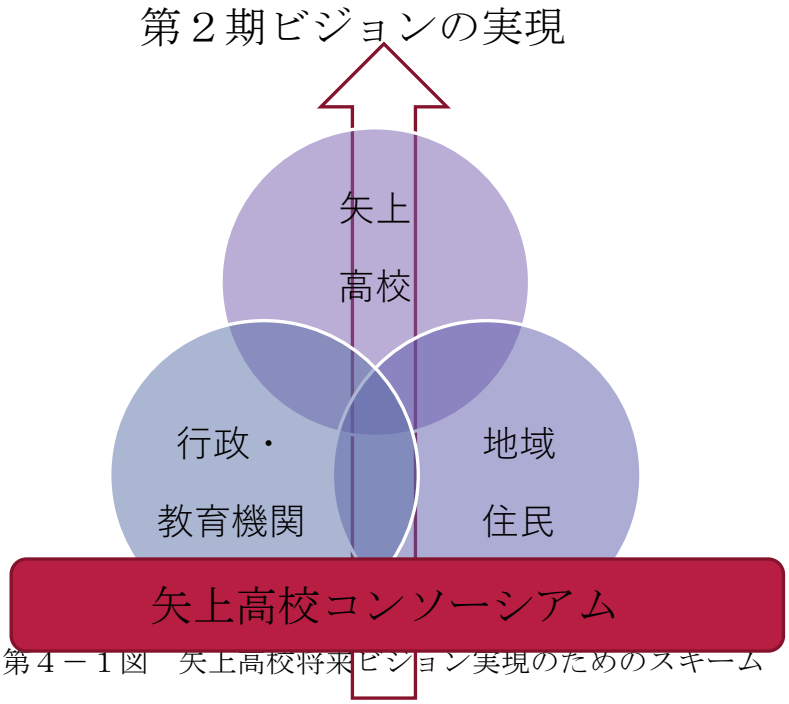
第４章では、矢上高校魅力化推進本部会議の議長として第１期・第２期矢上高校将来ビジョンの策定に関わり、これまでの矢上高校の魅力化において指導的役割を担ってきた国立大学法人島根大学教育学部作野広和教授による、第２期ビジョンを実現するために必要な事項についての提言を記載する。ここでは第２期ビジョンの実行主体を規定し、PDCA サイクルを確実に実行していくための方策について示されている。また、ビジョンの実現を促進するための環境づくりや課題解決のための方策、さらに、将来的に考えるべき課題や中・長期的な展望についても触れられている。

１．実行主体と実行方策

（１）多様な主体

第２期ビジョンを実現していく主体は、矢上高校である。一方で、多くの人や組織が関わっていかなければ、第２期ビジョンの実現は難しい。具体的には、邑南町をはじめとした行政機関や、町内や島根県に位置する学校などの教育機関、地域住民や公民館などが考えられる。このように多様な主体の参画が、第２期ビジョン実現の鍵となると思われる。とりわけ、邑南町住民は町内唯一の高校であり、邑南町の最高学府としての矢上高校を維持していくことは、責務であるといえる。「オール邑南」により、矢上高校の存続と、さらなる魅力向上を目指すために、全力を注がなければならない。

また、第２期ビジョンの進捗状況の管理と、第２期ビジョンの改訂については、矢上高校コンソーシアムが責任と主体性を持って実施する必要がある（第４－１図）。



第４－１図　矢上高校将来ビジョン実現のためのスキーム

（２）矢上高校に期待する役割

第２期ビジョンの実施主体である矢上高校は、ビジョンの内容を教職員に周知するとともに、学校経営や授業カリキュラムに対して積極的に反映させ、その実現のために努力する必要がある。とりわけ、新指導要領の考え方に基づき、「開かれた教育課程」を実現す

るとともに、不断にカリキュラムマネジメントを行うことで、第２期ビジョンを授業改革につなげていく必要がある。したがって、第２期ビジョンの実現は、生徒の学力向上に寄与するものであるとともに、教員の教師力向上にもつながるものと考える。

また、矢上高校の教員自身も第２期ビジョンを実現するために自覚と責任を持ち、自らの力量を高めていく必要がある。それは、教諭のみならず管理職も積極的に研修を受け、知識とスキルを絶えず最新のものにアップデートしていく必要がある。必要に応じて、力量の高いスーパーティーチャーを町単独加配や学校間の交換人事で配置するなど、思い切った対策も期待される。

さらに、第２期ビジョンに示された内容を実施するにあたり、子どもたちの学びが促進できるよう環境を整備する必要がある。具体的には、ICT を中心とした校内学習環境の整備をはじめ、特色ある学習を推進していくための空間、教材・教具、図書・資料などを整備していく必要がある。

なお、同じ県立学校である石見養護学校との積極的な連携も期待されるところである。石見養護学校とは学習機会の共有や学習施設の共用といった生徒に関わる要素のみならず、教職員同士が相互に連携し、教科や領域に関する情報共有や協働が期待される。

（３）行政の使命と学校間の連携

第２期ビジョンの実現は、矢上高校の教職員だけでは成し遂げられない。行政機関も積極的に関与していくべきである。とりわけ、邑南町は予算と人材を確保し、継続的に矢上高校を支え続けていく必要がある。

また、矢上高校が教育活動を行う際には、首長部局、教育委員会が全面的に協力できる体制を整える必要がある。そのためには、矢上高校に関する対応窓口を一本化し、機動的に対応できるようなワンストップサービスが求められる。

ところで、邑南町では保育所、小学校、中学校、高等学校・養護学校の連携を意識し、「おおなんドリーム学びのつどい」や「中高合同キャリア学習事業」などが行われてきた。今後は、乳幼児から高校段階に至るまでの、子どもたちの「学び」と「育ち」を系統的に行うよう努める必要がある。邑南町に居住し、邑南町の学校園で学ぶことで、子どもたちが自然な形で邑南町らしい特色ある教育を受けられるよう、その見取り図を示すべきである。

そのためには、日頃から保育園、小学校、中学校、高等学校の保育士・教員相互のコミュニケーションを図るとともに、学校種をまたいだ人事交流や授業交換・授業研究会などを積極的に行う必要がある。邑南町は、このような機会を積極的に用意するとともに、学校間の連携を図るための「つなぎ役」としての役割が期待される。

（４）地域住民の役割

第２期ビジョンを実現するためには、地域住民の協力がなくてはなし得ないと考える。矢上高校は邑南町内の最高学府であり、町内には多くの卒業生が存在している。矢上高校の存続は、邑南町における生活そのものを維持するために不可欠であることを住民は強く認識する必要がある。

地域住民をはじめ、多くの事業所に勤務する人たち、さらには高校出身者などによって「矢上高校地域応援団」が既に組織されている。今後は、「矢上高校地域応援団」をはじめ地域住民によって矢上高校に対して人的支援、経済的支援、学習機会の提供を行う必要がある。

また、地域住民は、子どもたちの学習に対して直接的な関与も求められる。第２期ビジョンに記された「協育パートナー」として積極的に矢上高校に出入りし、学習支援や校内環境整備の役割を担うことが期待される。部活動指導においても同様の考えが適応できる。

なお、矢上高校の学習においては、邑南町内に点在する公民館、図書館などの社会教育施設はもちろんのこと、多くの事業所が存在する。また、田畑や森林、史跡や公園など恵まれた環境を活かすために、邑南町全体が学びのキャンパスとなることが期待される。矢上高校の生徒をはじめ、園児や児童・生徒が、地域の大人たちと触れあうことを通して、有意義な学習が展開されることが期待される。

２．実行のための環境づくり

（１）高等教育機関等との連携と外部人材による支援

島根県内には、国立島根大学や島根県立大学をはじめ、多くの専門学校など高等教育機関が存在している。これらの学校と矢上高校が強く結びつくことで、矢上高校にはない資源や人材を活用できることになる。具体的には、大学等との連携によるカリキュラム構築、教員の派遣によるレベルの高い授業の展開、学生・生徒の相互派遣によるインターンシップの実施、進学上の指定校化や高大接続プログラムの実施などが考えられる。

あわせて、第２期ビジョンを確実に実行していくためのアドバイザーも、高等教育機関等から派遣されることが求められる。

このような高等教育機関等との連携は、島根県内に限らない。隣接する広島県内には多くの大学・短大・専門学校が存在している。また、京阪神圏、中京圏、首都圏に立地する高等教育機関との連携も、ICT 機器を活用して可能となる。さらに、海外の機関との連携も視野に入れることもできる。

ただし、高等教育機関等との連携においては、矢上高校側においても体制を構築する必要がある。そのためには、外部機関と連携するコーディネーターの存在が不可欠になると思われる。そうした人材も、大学等からの派遣により確保する必要がある。

（２）公営塾の設置

全国の離島・中山間地域に位置する高校が所在する町村には、公営塾が設けられる例が多い。公営塾は、教科等に関する学習支援を行う他、地域課題解決学習や、キャリア教育支援など、多様な学習機会となっている。邑南町は、民間の学習塾はほとんどないため、公営塾の設置が望まれる。

公営塾が設置された場合、邑南町在住の矢上高校以外の生徒たちにも学びの機会が提供でき、生徒たちの横のつながりも促進できる。また、小学生や中学生たちもともに学ぶことにより、縦のつながりも深まることが期待される。

（３）中間支援組織の構築と人材育成

第２期ビジョンを実現したり、矢上高校のカリキュラムをさらに魅力的にしたりするためには、高校教員以外のコーディネーターをはじめ、多くの人的資源が必要となる。そうした人的資源を行政や教育の枠組の中だけで確保するためには難しい。

そこで、中間支援組織を構築し、高校に対してコーディネーター等の人材を派遣する形をとることが求められる。中間支援組織は、高校教育のみならず、義務教育や特別支援教育、さらには社会教育など、幅広い教育支援を行うことが期待される。

島根県益田市に設立されている一般社団法人豊かな暮らしラボラトリーは益田市内の小学校 15 校、中学校 10 校、高校４校に関わり、課題解決学習、児童・生徒の居場所づくり、大人のサードプレイスなどの役割を担っている。

邑南町においては、近隣の市町と連携して、このような組織の設置が期待される。

（４）財源の確保

現在は邑南町の一般財源から、矢上高校支援のために多くの支出がなされ、矢上高校の魅力向上が図られている。しかし、国や町の財政状況は厳しく、今後も継続的に支援が得られる保証はない。公教育を行う高校とはいえ、その魅力向上においては、多少なりとも自主財源を得る必要がある。

自主財源を得るためには、クラウドファンディングを実施したり、卒業生から寄付金を募ったりすることが考えられ、これらは実行していくべきである。

また、恒久的な財源を確保するためには、基金の設立が不可欠である。過疎債ソフトを利用した基金化や、町内外の法人などにも出資を求め、地域が一体となって矢上高校を維持していく方策が求められる。

３．長期的展望と将来的検討すべき課題

島根県発ともいえる離島・中山間地域における高校の魅力化は、瞬く間に全国に広まった。文部科学省は、高校を地域の核に位置づけ、高校教育と地域の維持を一体的に推進することを政策に据えている。矢上高校としては、こうした動向を歓迎する一方で、全国の高校が地域外の生徒を求めた結果、いわゆる「ゼロサムゲーム」の状況が生まれている。今後、離島・中山間地域において高校を存続させるためには、地域における人口の再生産とセットで考えていく必要がある。幸い、邑南町の出生者数は一定数を維持しているが、今後もこうした状況を確保する必要がある。

将来的には、矢上高校が高校教育のためだけの機能を有するのではなく、多様な機能を有する必要がある。矢上高校には、校舎や体育館、グランドをはじめ、実習施設もある。これらは矢上高校のみが占有するべきものではなく、地域と共有することで、それらを有効に活用することが可能となる。そうすることで、財源の確保に寄与することも考えられる。

邑南町の存立と矢上高校の存続は、表裏一体ともいえる。今後も矢上高校が存続していくためには、地域住民による矢上高校に対する「関心」と「関与」が重要となる。この関係を継続するために、邑南町全体をキャンパスとみたてた、「邑南大学」構想も考えられる。大学の教員は地域住民であり、町内の学校に通う全ての子どもたちを育てる責務を負うことが期待される。地域全体における子どもたちの「学び」と「育ち」をデザインすることで、矢上高校の役割は自ずと明確になると思われる。

参考資料

第２期矢上高校将来ビジョン策定までの経緯

<table>
<tr><th colspan="4">矢上高校将来ビジョン関係会議</th></tr>
<tr><td colspan="4">令和元年度</td></tr>
<tr><td>4月</td><td>地域とともにある学校づくり準備会【4/23】</td><td rowspan="2">11月</td><td rowspan="2">コンソーシアム設立準備会【11/1】
コンソーシアム設立準備会【11/8】
コンソーシアム設立準備会【11/22】
コンソーシアム設立準備会【11/29】</td></tr>
<tr><td>5月</td><td>地域とともにある学校づくり準備会【5/30】</td></tr>
<tr><td>6月</td><td>地域とともにある学校づくり準備会【6/5】
地域とともにある学校づくり準備会【6/20】
地域とともにある学校づくり準備会【6/22】</td><td rowspan="2">12月</td><td rowspan="2">コンソーシアム設立準備会【12/6】
地域とともにある学校づくり準備会【12/8】
300 人委員会 1000 人委員会【12/8】
コンソーシアム設立準備会【12/12】
コンソーシアム設立準備会【12/18】</td></tr>
<tr><td>7月</td><td>魅力化推進本部会議【7/18】</td></tr>
<tr><td>8月</td><td>地域とともにある学校づくり検討会【8/26】
コンソーシアム設立準備会【8/26】
地域とともにある学校づくり検討会【8/27】</td><td rowspan="3">1月</td><td rowspan="3">コンソーシアム設立準備会【1/8】
コンソーシアム設立準備会【1/10】
コンソーシアム設立準備会【1/17】
コンソーシアム設立準備会【1/22】
地域とともにある学校づくり準備会【1/23】
地域とともにある学校づくり準備会【1/24】
コンソーシアム設立準備会【1/24】
300 人委員会 1000 人委員会【1/26】
魅力化推進本部会議【1/27】
コンソーシアム設立準備会【1/31】</td></tr>
<tr><td>9月</td><td>コンソーシアム設立準備会【9/4】
コンソーシアム設立準備会【9/12】
コンソーシアム設立準備会【9/20】
魅力化推進本部会議【9/24】
コンソーシアム設立準備会【9/27】</td></tr>
<tr><td>10月</td><td>コンソーシアム設立準備会【10/4】
魅力化推進本部会議【10/7】
コンソーシアム設立準備会【10/11】
地域とともにある学校づくり準備会【10/19】
300 人委員会 1000 人委員会【10/19】
コンソーシアム設立準備会【10/24】</td></tr>
<tr><td colspan="4">令和２年度</td></tr>
<tr><td>7月</td><td>コンソーシアム設立準備会【7/21】
魅力化推進本部会議【7/29】</td><td rowspan="2">1月</td><td rowspan="2">コンソーシアム設立準備会【1/14】
コンソーシアム設立準備会【1/25】
教育振興会臨時理事会【1/27】</td></tr>
<tr><td>9月</td><td>コンソーシアム設立準備会【9/10】
魅力化推進本部会議【9/15】</td></tr>
<tr><td rowspan="2">12月</td><td rowspan="2">コンソーシアム設立準備会【12/1】
コンソーシアム設立準備会【12/11】
魅力化推進本部会議【12/16】
コンソーシアム設立準備会【12/24】</td><td>2月</td><td>コンソーシアム設立準備会【2/22】</td></tr>
<tr><td>3月</td><td>コンソーシアム設立役員会【3/1】</td></tr>
</table>

矢上高校魅力化推進本部

令和元年度　矢上高校魅力化推進本部委員名簿

氏　　名	所　　属
作野　広和	島根大学教育学部教授
秋田　倫告	特別養護老人ホーム　桃源の家　所長
栗原　光輝	矢上高等学校　PTA 副会長
坂根　貴己子	矢上高等学校　PTA 副会長
小泉　篤	矢上高等学校　卒業生
志波　英樹	矢上高等学校　校長
木村　文明	矢上高等学校　教頭
大矢根　久和	矢上高等学校　事務長
石原　寛治	矢上高等学校　主幹教諭
三谷　圭一	矢上高等学校　産業技術科長
三上　直樹	邑南町役場　地域みらい課　課長
和田　恵子	邑南町役場　地域みらい課　統括課長補佐
大橋　覚	邑南町役場　生涯学習課　課長
寺本　英仁	邑南町役場　商工観光課　調整監
藤彌　葵実	20 代女性（邑南町在住）
小林　圭介	矢上高校魅力化コーディネーター
山本　翼	矢上高校魅力化コーディネーター
田村　成生	邑南町役場　地域みらい課　課長補佐

令和２年度　矢上高校魅力化推進本部委員名簿

氏　　名	所　　属
作野　広和	島根大学教育学部教授
秋田　倫告	特別養護老人ホーム　桃源の家　所長
栗原　光輝	矢上高等学校　PTA 副会長
坂根　貴己子	矢上高等学校　前 PTA 副会長
小泉　篤	矢上高等学校　卒業生
志波　英樹	矢上高等学校　校長
奈良井　瑞恵	矢上高等学校　教頭
吉田　健一	矢上高等学校　事務長
石原　寛治	矢上高等学校　主幹教諭
三谷　圭一	矢上高等学校　産業技術科長
田村　哲	邑南町役場　地域みらい課　課長
上田　直明	邑南町役場　地域みらい課　主任
大橋　覚	邑南町役場　生涯学習課　課長
寺本　英仁	邑南町役場　商工観光課　課長
藤彌　葵実	20 代女性（邑南町在住）
小林　圭介	矢上高校魅力化コーディネーター
山本　翼	矢上高校魅力化コーディネーター
田村　成生	邑南町役場　地域みらい課　課長補佐

令和元年度　矢上高校魅力化コンソーシアム設立準備会名簿

氏　　名	所　　属
志波　英樹	矢上高等学校　校長
木村　文明	矢上高等学校　教頭
大矢根　久和	矢上高等学校　事務長
石原　寛治	矢上高等学校　主幹教諭
三上　直樹	邑南町役場　地域みらい課　課長
小林　圭介	矢上高校魅力化コーディネーター
山本　翼	矢上高校魅力化コーディネーター
田村　成生	邑南町役場　地域みらい課　課長補佐

令和２年度　矢上高校魅力化コンソーシアム設立準備会名簿

氏　　名	所　　属
志波　英樹	矢上高等学校　校長
奈良井　瑞恵	矢上高等学校　教頭
吉田　健一	矢上高等学校　事務長
石原　寛治	矢上高等学校　主幹教諭
佐々葉　祐久	矢上高等学校　教務部長
三谷　圭一	矢上高等学校　産業技術科長
田村　哲	邑南町役場　地域みらい課　課長
小林　圭介	矢上高校魅力化コーディネーター
山本　翼	矢上高校魅力化コーディネーター
田村　成生	邑南町役場　地域みらい課　課長補佐

矢上高校の魅力化についてのアンケート結果

１.地域の意見①

⇒　地域とともにある学校づくり「300 人・1000 人委員会」の議論より

・挨拶をする習慣を子どもにつけさせる
・挨拶が人間にもたらす効果を子どもに検証させる
・挨拶が当たり前にある環境を作る
・いけないことはいけない、いいことはいいを気づかせ、子どもから人に伝える
・なぜ、叱られたり褒められたりしなければならないのか子どもに考えさせる
・子どもに読み聞かせがもたらす効果を検証する
・子どもに読み聞かせの機会を提供する
・子どもに奉仕作業への参加について話題をふる
・奉仕作業の参加者数を増やす方法を子どもに探らせる
・子どもに川遊びへの参加について話題をふる
・川の水質を子どもと一緒に調べ、課題を抽出し、解決策をさぐる
・スポーツしている姿を観に行く
・スポーツを通して連携を深める、喜びを得る
・スポーツを一緒にする（指導する）
・学校での子供たちの活動について家庭で話をする
・学校が存在する意義を考え、今後も魅力を高めていく取組を検証する
・学校の魅力発信をするために、協力する
・地域の魅力を子どもに伝える
・地域の良さを高めるための課題を解決する方法を提言させる
・地域学校への参加。先生の一員として対応させる
・まつりの歴史を調べてみるように子どもに促す
・まつりがあることによる地域の経済効果を子どもに検証させる
・まつりの企画会議へ参加させる
・商品開発のイメージを子どもと考える
・商品開発を授業の中で行う
・商品開発に協力する
・地域の課題・将来を考える会議に参加する
・これからの地域について自分ができることを子どもに考えさえる
・地域で一緒になって地域のためにできる取り組みを検討・共有する
・子ども達の取組に協力する
・学校の応援となるものを子どもと実際にやってみる
・学校を応援することで、学校がどうなっていくのか検証する
・学校がある地域として、具体的に行動する
・将来の学校の理想像を子どもとイメージする
・学校の良さをもっと増やすためにまずやるべきことを実施し、効果を検証する
・地域の学校の存在意義を再認識し、子どもたちが考える学校魅力化活動に協力する
・自身の将来設計について子どもと具体的に話し合う
・具体的なＵＩターン施策を検討・実施する

２.地域の意見②

⇒　地域の方へのアンケートより

〇質問事項「５年後の矢上高校はどんな学校であってほしいですか。

2025 年の矢上高校の様子／持続可能な矢上高校の姿を描いてください。

・今のまま地域に根付いた学校であってほしい
・外部の生徒が増えても変わらず素直なままでいて欲しい
・社会に出てからやっていける力をつけて欲しい（課題解決できる力、コミュニケーション能力、発想力、自分で考え、伝える力、ふるさとを大事に思う心）
・卒業生が「矢上高校でよかった」と思える学校
・生徒、クラスの減少がなくいつまでも活気のある学校
・偏差値 55
・我が子も矢高に入れたいと思えるような学校
・ICT の充実
・グローバル化
・楽しい学校生活が送れる学校
・現状でよい
・部活動での成果によって活気があり、地域との繋がりも今より強く、生徒数の増加や他校から注目を集める学校
・邑南町の学校施設の中心として、生徒の行う行事等の情報発信をして欲しい
・学習体験を行える場
・県内外の安定した生徒数と邑南町で生活出来る体制
・生徒数を 120 人に戻す
・全国区の高校
・矢上高校でしかできない魅力がある学校
・地元や県内に残りたいという気持ちを育む学校
・小中学校の子どもたちにも発信して欲しい
・英語に強い学校
・県外生が卒業後 戻ってくる、就職するような体制がある学校
・通院の送迎、食事面でのサポートなどがある魅力的な寮
・卒業後多様な選択肢ができる高校
・小規模の良さをもった学校
・適正生徒数の見直し
・地域の人も利用できる学食（野菜や料理なども生徒がプロデュース）
・卒業生が気軽に行ける学校
・町内の子どもが多く学んでいる高校
・世界のリーダーになれる人材の輩出
・島根中央高校の方が頑張っているように感じる（女子野球部、吹奏楽部、寮の設備など）

３.保護者の意見

⇒　保護者アンケートより

〇質問事項「５年後の矢上高校はどんな学校であってほしいですか。

2025 年の矢上高校の様子／持続可能な矢上高校の姿を描いてください。

・卒業した子どもたちが邑南町の魅力、価値を十分理解し、将来帰ってきてほしい
・地元の子どもたちが矢上高校を選んでくれるような高校であってほしい
・生徒の数が増え、どこへでもアピールできる点が一つでもあればいいと思う
・他校に負けない強みを見つけて活かしてほしい
・部活、勉強と充実した学校であってほしい
・地域と共に活動し、学べる学校
・地元の人達と頑張っている生徒たちを応援（支援）したくなるような学校
・矢上高校でしか体験できない生活が送れる学校
・地元の小中学生、保育所との交流と高校の様子を高齢者でもわかるよう情報発信を
・「無くなる学校」ではなく「残る学校」であってほしい
・何か１つの部に特化せず、どの部も力が入っている学校
・子どもの希望する学校に進学出来る力をつけてもらえる学校
・学校、保護者、地域が良い関係であってほしい
・生徒１人１人が自分で考え行動に移せるような子どもを育てる高校
・生徒側から学校へ意見などを発信しやすい環境
・県外の生徒募集もいいが、町内の生徒も大切にしてほしい
・地元の子どもが進学希望する高校であってほしい
・母校の存続
・福祉科があればよい
・地域との共存が根付き、誰もが希望したいと思える学校であってほしい
・生徒１人１人が主役となり、活気あふれる学校であってほしい
・地域に根差し、田舎の良さをアピール
・産技の生徒たちがもっと農業の素晴らしさを実感出来る取り組みをしてほしい
・町内の子どもが多く通えるようにしてほしい
・子どもが自立、自己主張もでき、成長していくような生活応援が良いのでは
・産技の魅力化事業には力が入っていて良かったので、これからも頑張ってほしい
・産技が２クラスあってもよいのではないか
・林業、農業大学などと連携があれば可能性が広がるのではないか
・就職ややりたい事に繋がるような学校になると良い
・海外の留学生に田舎ならではの体験、交換留学などの体験ができる学校
・県外の生徒募集の PR は続けてほしい
・現状よりもさらに地域密着
・普通科より有名国立大への多数進学、産技の牧場や農業の経営化を全国へ発信して生徒や協力者が集まる学校
・町内だけでなく町外、県外からたくさんの生徒が入学を希望するような学校
・寮の完備等で地域外の生徒が増える
・農業分野へ力を入れ農業の後継者育成の基礎となっている

４.生徒の意見

⇒　新入生アンケートより

〇質問事項「５年後の矢上高校はどんな学校であってほしいですか。

2025 年の矢上高校の様子／持続可能な矢上高校の姿を描いてください。

・明るく楽しい学校、雰囲気がよく活気がある学校
・地域との関わりがあり、地域の方から愛される学校
・今のままで、長く伝統を続けてほしい
・生徒の仲が良く上下関係が少ない学校、いじめがない学校
・校則に縛られすぎない
・学校全体がきれい
・勉強だけでなく、行事や部活動もしっかり楽しめる学校
・一人一人の個性を尊重し、伸ばしていく学校
・野球だけになってほしくない、理数科があるとなおよい
・楽しく明るい学校
・いつも元気なあいさつができ、あたたかみのある学校
・地域との関わりが深い学校、地域の方から応援される学校
・文武両道を目指せる学校
・一人一人の個性が出せる学校
・生徒が意見を言い合える学校
・県外の人にも覚えてもらえるような学校
・主体的に行動する学校
・様々な所で活躍できる生徒が多く卒業していく学校
・明るく楽しい学校
・あいさつのできる学校
・地域の方や周りの方から温かい目で見てもらえるようなふるまいや態度などができる学校
・メリハリのある学校
・居心地のいい学校
・上下関係をあまり気にしない学校
・そのままの姿でいてほしい
・一人一人の笑顔を大切にし、個性を尊重する学校
・一人一人が協力できるような学校

５.教職員の意見

⇒　教職員アンケートより

〇質問事項「５年後の矢上高校はどんな学校であってほしいですか。

2025 年の矢上高校の様子／持続可能な矢上高校の姿を描いてください。

・求める生徒像と入学生が一致していない
・希望する進路、多様な進路目標が実現できる
・生徒の進路を実現できるように外部の力（委託など）を借りて行うべき
・学力向上、進路保障、部活動の充実、支援
・進路保障
・人間形成のサポート
・最終的に地域に帰って来ようと思える人材育成
・基礎的な学力を定着させ、基本的な生活習慣を身に付けさせる。その中で１つ１つのレベルを上げていく（発表するプレゼン力など）
・国公立大学への進学実現
・地域性に関係なく対外的に発信、貢献、進出（勝負できる）という自信や成功体験
・一任してまかせられる、安心感のある学校
・相互理解の先に外（県東部や県外）とのギャップをどう伝え、解決するか
・学力向上、進路保障、生徒の支援
・情報提供（面談、HP、授業参観、PTA 活動）
・子どもの成長を実感できる学校になる
・地域との連携強化
・やりがいがあり、勤務するのが楽しい学校
・自己研鑽に努める
・もう少し各々プライベートでゆとりのある学校であればよかった
・活動（活躍）できる時間と場所と資金
・色々なことに柔軟に対応していける力を学べる学校だと思う
・教師が授業に集中できる環境作り
・授業以外の郊外活動は不要
・U ターンする生徒、地元を支える生徒、これらの人材育成をする
・地域のことを考え、地域の役に立つ、活力を与える
・いい意味で話題に挙がる存在であってほしい
・存続すること
・邑南町や石東地区を代表できる「矢上高校ならでは」の強みを明瞭化
・地域とのつながりを大切にした様々な取り組みが必要
・矢高生が地域に、この社会に必要であるとアピールしたい
・社会問題に向かう意欲と能力のある生徒を育てる
・将来にわたり、邑南町と繋がる人材を育成
・学校と地域が協力してコミュニティーを作る一例になれたら
・「矢上高校だからこそできる」事柄をアピールして地域や社会の活性化へ
・地域や日本、そして世界を支える人材の育成、輩出
・生徒の学力をつけることが結果としてすべてに対する貢献と言える

島根県立矢上高等学校
〒６９６－０１９８
島根県邑智郡邑南町矢上３９２１番地
電話（０８５５）９５－１１０５

【令和３年３月】